

教育センターニュース

ミネルバ

101号

佐賀県教育センター <http://www.saga-ed.jp/>
〒840-0214 佐賀県佐賀市大和町大字川上
TEL 0952-62-5211 FAX 0952-62-6404

特集記事

- 平成18年度新設講座の紹介
パート2
- 公開講座の紹介
- 研究協力校での授業紹介
- 教育論文・マルチメディア教材募集



平成18年度新設講座の紹介パート2

今回は前号に引き続き3本の新設講座の紹介をします。佐賀県教育センターは、これからも学校現場に役立つ講座の充実を目指します。

Flashを使ったアニメーション教材作成講座 8／4・7・11



このようなキャラクターを描いて、手足を動かしたり、走らせたりすることができます。

アニメーションを取り入れたマルチメディア教材を自作する先生が増えています。図形や文字を動かしたり、様々な表示効果を設定したりする技術の1つにFlash（フラッシュ）アニメーションがあります。

本講座では、Flashアニメーション作成ソフトの基本的操作を習得し、簡単なアニメーションやホームページを飾るスライドショーの作成を行いました。講座最終日には、○×判定クイズや対話型の問題などを作成しFlashアニメーションの教材としての有効性を確かめました。受講後の感想として「Flashの使い方がよく分かった」「もっと時間を掛けて学びたい」「是非、活用したい」などの声がありました。

小・中学校食育講座(クラスでできる食育指導のすすめ方) 8／10



先生方に1食分の子どものおやつのご量を計ってもらいました。

食に関する指導の進め方について、理論や実践の基礎を学ぶというねらいで開講しました。たくさんの先生方に受講していただき、食育への関心の高さと食の指導の難しさを改めて感じました。講座では、「子どもたちの食の実態とその指導」についての講義、「1食分の子どものおやつ概量を知る」ための演習、小・中学校での実践事例の発表などを中心に行いました。

今年度、教育センターでは小・中・高等学校の先生方の協力を得ながら、『食べる力』をはぐくむ食育授業の研究に取り組んでいます。来年度は、もう少し実践事例を紹介してほしいという先生方の希望に添うような講座に充実させていきたいと思っています。また、2月の教育実践交流会でも中間発表を行う予定です。

Photoshop Elementsを使ったデジタル教材作成講座 6／22・26



デジタルカメラの普及に伴い、コンピュータに画像を取り込んで加工することが多くなりました。Web素材をはじめとしたデジタル教材を作成するためには、画像処理のスキルが必要になります。

本講座ではPhotoshop Elementsという画像処理ソフトウェアを使って、基本的な操作方法の習得と教材作成を行いました。特に、個人写真を利用して、「似顔絵」を作成する技法が好評でした。受講された先生からは「学校現場で活用したい」「静止画の活用法が分かった」という声がありました。



公開講座の紹介

今年度は8本の公開講座を設定しました。いずれも盛況でしたが、今回は3本を紹介します。

- ◆特別支援教育スキルアップ講座 8／3
- ◆中学校英語科・高等学校英語科講座 8／11
- ◆小学校理科・中学校理科講座 11／2

～その他の公開講座～

- ◆中・高理科講座 8／11
- ◆LD・ADHD等の気になる子どもの理解と支援講座 10／19



小学校道徳・中学校道徳講座 8／8

－「生きる力」を育てる道徳授業づくり－

今、現場の先生方が悩んでいる課題について、明治大学教授の諸富祥彦先生に講演をしていただきました。144名の受講者となり、大盛況でした。

諸富先生はカウンセラーとしても著名で、構成的グループエンカウターのエクササイズを取り入れながら楽しく分かりやすいお話をしてくださいました。あっという間の3時間半でした。道徳の4つの視点に合致した授業形態を具体的に示していただき、教師のやる気につながる研修でした。

「アカデミックな内容をわかりやすくお話ししていただいてよかった。また聞きたい」という参加者からの声も多く聞かれました。



小学校社会科・中学校社会科講座 8／23

－これまでの社会科とこれからの社会科－

めまぐるしく変化する社会に対応し、よりよく生きていくために必要な学力とは何か。社会科で育てるべき「公民的資質の基礎」とは何か。これらの究極の課題について、筑波大学附属学校教育局教育長の谷川彰英先生に講演をしていただきました。県内各地より多数の先生が参加され、中央教育審議会のメンバーで、国の教育行政にも詳しい谷川先生のお話に、熱心に耳を傾けていました。

学力低下論を切り口に、生涯を見据えた学力について、具体的な社会科の授業を例に挙げながら分かりやすく話していただきました。「今まで自分が行ってきた授業をもう一度見直し、改善したい」という参加者の声がありました。



自立活動・コミュニケーションの指導講座 8／30

－発達障害児のコミュニケーション能力を高めるために－

LD、ADHD、高機能自閉症等の児童生徒のコミュニケーションのつまづきを理解し、その力を高めるためのかかわり方について、大阪府立大学助教授の里見恵子先生に講義をしていただきました。受講者数は191名にのばりました。

自閉症やその周辺の障害のある子どもを中心として、子どものコミュニケーションの様子がビデオで紹介され、そのつまづきや対応の在り方について考える時間を作っていました。また、里見先生の温かな話しぶりに心引かれる受講者も多く、「ここで学んだかかわり方を教室で生かしたい」という参加者の声が聞かれ、実りある研修となりました。



センター所員が研究協力校(春日北小学校・大和中学校・致遠館高等学校)で授業を行いました

教育センターでは、理論研究だけではなく講座の一環として授業実践を行っています。今後も魅力ある授業をしていきますので、是非受講してください。

小学校 英語活動講座 10／5



～授業者のコメント～

色の英語表現を使って、色づくりや塗り絵を楽しみました。この講座の様子は、11/5(日)午後10:00からのNHK教育テレビの番組で放映されます。

～受講者の声～

英語活動がコミュニケーション能力や国際理解のためだと聞き、自分の中で納得できました。「異文化を知って自文化を知る」ということは、視野の狭い日本人には大切なことなんじゃないかと感じました。

中学校 家庭科講座 9／22



～授業者のコメント～

3つの課題に沿って立てた弁当の献立を検討する授業でした。改善した献立について意見交換や発表を通して、生徒相互で評価しました。

～受講者の声～

弁当という限られた条件の中でも献立に創意工夫が見られ、意欲がわいてくる内容だった。
評価の方法や発表の仕方、全体の見通しがはっきり提示されていたので分かりやすい授業だった。

高校 生物講座 9／28



～授業者のコメント～

遺伝と進化について、簡単なシミュレーションを取り入れた授業を行いました。
指導方法の提案として参考にしていただければと思います。

～受講者の声～

普段とは異なる視点からの授業で、とても刺激を受けた。シミュレーション結果の解説を聞いてうなずいている生徒もいて、いい授業だった。自分でもシミュレーションの授業をやってみよう。

～その他の授業～

春日北小学校	算数科(10月13日)
	音楽科(10月17日)
	道徳(10月19日)
	国語科(10月24日)
	社会科(10月27日)
大和中学校	理科(11月2日)
	道徳(9月26日)
	社会科(9月28日)
	数学科(10月17日)
致遠館高等学校	国語科(10月19日)
	数学科(10月5日)



「教育論文・マルチメディア教材」たくさんの応募をお待ちしています！

●募集部門

「教育論文部門」

校内研究の部(各学校で取り組んきた教育実践)

個人研究の部(個人またはグループで取り組んできた教育実践)

「マルチメディア教材部門」

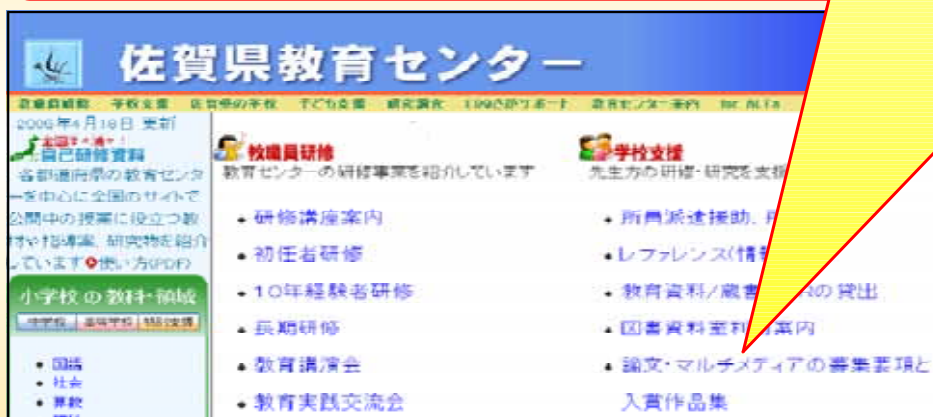
分かる授業を行うために工夫されたマルチメディア教材



●提出先及び募集期間

幼稚園、小・中学校は当該市町教育委員会へ11月6日(月)～14日(火),

県立学校は直接、教育センターへ11月20日(月)～28日(火)までに応募票及び教育論文またはマルチメディア教材を提出してください。



詳しくは教育センターホームページをご覧ください。また、「全国津々浦々自己研修資料」や「研究紀要検索」「蔵書検索」もご活用ください。



教育实践交流会

テーマ

一子どもが輝く教育活動の

改善と充実を求めて一

期日：平成19年2月15日(木)

※ 今年度は上記の日程で開催します。各学校の研修の一環として、多数の参加をお待ちしております。

8:30 9:00 9:25 9:35		10:55 11:10		12:30 13:30		14:50 15:10		16:30	
受付	開 会 式	轉 送	交流Ⅰ	轉 送	交流Ⅱ	昼 食	交流Ⅲ	轉 送	交流Ⅳ
			分科会 リクシブ*		分科会 リクシブ*		分科会 リクシブ*		分科会 リクシブ*
時間	25	10	80	15	80	60	80	20	80

- ＊ センター所員による各教科領域等の分科会
 - ＊ 教育論文・マルチメディア教材の入賞作品発表
 - ＊ 長期研修生による研修成果の中間発表
 - ＊ 研究協力校の発表
 - ＊ 佐賀大学と県教育委員会との連携
- 



〈編集後記〉

秋も深まり、各学校や各種研究団体主催の研究発表会も真っ盛りです。それぞれの先生方が熱心に取り組まれた成果が、授業や研究紀要として公開されています。その一方で、研究発表会はされないものの、学校や個人で創意工夫のある実践をされている先生方もたくさんいらっしゃいます。その取り組みを教育論文という形にまとめて、上に紹介している「教育論文・マルチメディア教材」に応募されてはいかがでしょうか。たくさんのご応募をお待ちしております！